

没後10年
編集者・



イラストレーション：信濃八太郎

八田昌平と 第三の新人たち展

遠藤周作

安岡章太郎

吉行淳之介



2017
10.14(土) → 12.17(日)

町田市民文学館ことばらんど

- 休館日／毎週月曜日、第2木曜日 ●観覧時間／10:00～17:00
- 観覧料／一般:400円、大学生・65歳以上:200円、高校生以下無料
- ※ただし、10月14日、21日、22日、11月3日、12月17日は無料
- 特別協力／池内輝雄
- 協力／学習院大学史料館、軽井沢高原文庫、県立神奈川近代文学館、思潮社、昭和女子大学図書館、新潮社、世田谷文学館、中野重治文庫記念坂井市立丸岡図書館、日本近代文学館、堀辰雄文学記念館、山崎豊子文化財団、吉村昭記念文学館

町田市民文学館公式アカウント(@machida_kotoba)で最新情報配信中



温故知新

完璧な個人作家全集と評された『堀辰雄全集』編集の縁で、1954年新潮社の編集者となった谷田昌平は、同年「三田文学」を通して旧知の仲であった遠藤周作とともに、「構想の会」に参加。「第三の新人」と呼ばれた島尾敏雄、小島信夫、庄野潤三、安岡章太郎、吉行淳之介等と出会いました。そこでは、若手作家や批評家たちが、たわいもない話をしながらも、戦後派の文学とは異なる、新たな文学を模索していました。

終戦後、京都大学に進み古典文学の研究をするも、次第に現代文学に魅かれていった谷田にとって、日常的な営みを淡々と描き出す“第三の新人”たちの作品は、私小説の伝統にのっとりながらも、新たな可能性に溢れて見えました。

また、既に文豪と言われていた武者小路実篤や室生犀星に加え、後に人気作家となる司馬遼太郎や安部公房などを担当していた谷田は、「年長の作家や同世代の作家によって編集者として勉強させてもらった」と述べているように、幅広い世代の作家たちと接し、多くの著作の出版に携わりました。

長編重視の傾向をいち早く捉え「純文学書下ろし特別作品」として、安部公房の『砂の女』、遠藤周作の『沈黙』を世に送り出し、1970年頃からは「新潮日本古典集成」の編纂に尽力。1976年からは、文芸雑誌「新潮」の編集長を務めました。

「温故知新」——“第三の新人”たちが、私小説的な純文学の伝統に立ち、その後独自の作風を確立したように、谷田もまた“文学の伝統”を重んじながら“新しさ”への挑戦を続けました。

本展では、谷田がライフワークとした堀辰雄研究から、批評家、編集者としてスタートした時期に仲間に加わった“第三の新人”たちとの関係、彼が出版に携わった多くの作品や作家たちとの交流を通して、彼の文学に対する姿勢やその仕事に迫ります。



「構想の会」に集まった第三の新人たち 1958年12月6日、銀座「はち巻岡田」にて（撮影：谷田昌平）



卒業論文「堀辰雄論」と堀辰雄が入れた筆跡の残る「堀辰雄年譜」



愛用した万年筆と「文藝手帳」

【関連イベント】 イベントの参加には展示会のチケットまたはチケットの半券の提示が必要です

■ 講演会・記念対談

「第三の新人」の文学の魅力

日時：11月18日(土) 14:00~15:30
講師：富岡幸一郎(文芸評論家)
定員：80名(申込順)
会場：町田市民文学館2階大会議室
申込：10月3日(火)12:00から
電話で町田市イベントダイヤル(042-724-5656)または町田市HP「イベシス」から イベントコード 171003D

記念対談 井坂洋子(詩人)×藤井一乃(「現代詩手帖」編集長)「谷田昌平との日々 詩人・牟礼慶子のことば」

日時：12月2日(土) 14:00~15:30
定員：80名(申込順)
会場：町田市民文学館2階大会議室
申込：11月2日(木) 12:00から
電話で町田市イベントダイヤル(042-724-5656)または町田市HP「イベシス」から イベントコード 171102B

■ 映画上映会

室生犀星原作「蜜のあわれ」

日時：11月5日(日) 14:00~16:00
定員：70名(申込順)
会場：町田市民文学館2階大会議室
申込：10月3日(火)12:00から
電話で町田市イベントダイヤル(042-724-5656)または町田市HP「イベシス」から イベントコード 171003C

遠藤周作原作、マーティン・スコセッシ監督「沈黙-サイレンス-」

日時：11月25日(土) 13:30~16:30
定員：180名(申込順)
会場：町田市民フォーラム3階ホール
申込：11月2日(木) 12:00から
電話で町田市イベントダイヤル(042-724-5656)または町田市HP「イベシス」から イベントコード 171102A

■ 展示解説

申込不要。
直接文学館2階展示室にお越しください。
10月14日(土)、11月14日(火)、
12月5日(火)、12月17日(日)
いずれも14:00~14:45

谷田昌平 (ただしやうへい) 1923-2007



新潮社にて 1958年3月

編集者、文芸評論家、堀辰雄研究者。兵庫県神戸市生まれ。妻は詩人の牟礼慶子。大阪府立池田師範学校、東京高等師範学校を経て、終戦後、京都大学文学部に進学。卒業論文では「堀辰雄論」を執筆した。大学卒業後、大阪府立桜塚高校に勤務。教師をしながら堀辰雄研究を続け、1953年堀辰雄が死去すると「堀辰雄全集」の編集に加わった。これが縁で、翌年新潮社に入社。出版部配属となり、「武者小路実篤全集」を皮切りに、室生犀星「杏っ子」、幸田文「流れる」、安部公房「砂の女」、遠藤周作「沈黙」など、数々の話題作を手掛けた。1958年から1989年まで町田市玉川学園に居住。病氣療養中だった遠藤周作に同地を紹介し、遠藤が居を移すきっかけとなった。



町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 東京都町田市原町田4-16-17
TEL 042-739-3420 FAX 042-739-3421
JR横浜線 町田駅 ターミナル口より徒歩8分/小田急線 町田駅 東口より徒歩12分

